

宮城県内市町村における地域活性度の類型化

農業センター

1 取り上げた理由

現在、特に中山間地域を中心とした各市町村の地域活性化方策を見出すことが求められおり、今後、施策で推進しようとする中山間振興においても地域活性度の現状を把握する必要性が高い。そこで、既存の市町村別データを用いた統計解析から、宮城県内における地域活性化の傾向について知見が得られたので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 宮城県内の全市町村を対象に17の指標をもとに主成分分析をし、1990年と1995年を比較したところ中山間農業地域よりも都市的農業地域の方が相対的に農業活力が低下していることがいえる。
- 2) 主成分分析から得られた各市町村毎の主成分得点を基にしてクラスター分析により3分類を行ったところ、農林統計上の農業区分にほぼ含まれる。

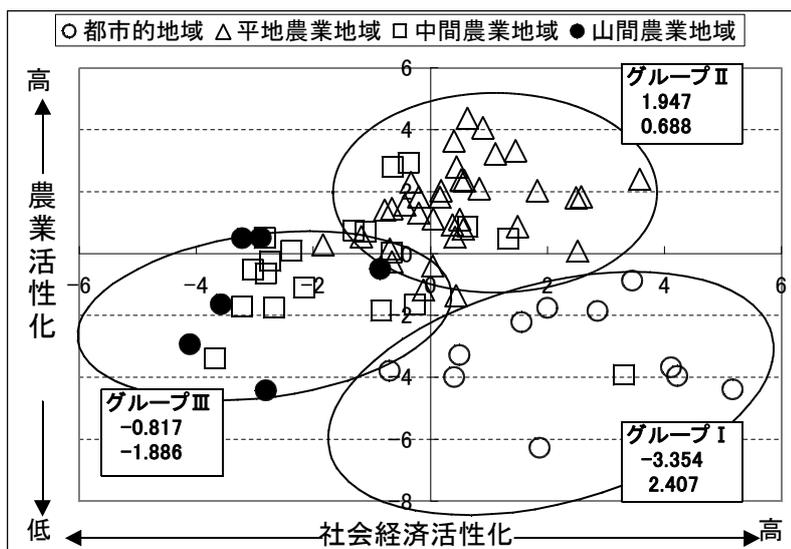


図1 主成分得点による宮城県全市町村の活力得点（1995年）

注1) 凡例は農林統計区分による農業地域類型

- 2) 図中の円に含まれる市町村はクラスター分析による分類であり、枠内の上段の数値は農業活力得点のグループ平均値、下段の数値は経済活力得点のグループ平均値である

3 利活用の留意点

- 1) 各地域の活性度や農業活性化の要因はデータの制約上、既存の市町村別統計を基に求めたものであるため、平均値でとらえた市町村像と集落レベルでの差がある市町村もある。

（問い合わせ先：宮城県農業センター営農機械部 電話022-383-8127）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間 地域資源活用による中山間地域振興支援手法の策定
(平成10～13年)

2) 参考データ

表1 主成分分析の結果（'95年）

変数名	第1主成分 因子負荷量	第2主成分 因子負荷量
①本業農家率	0.76512	0.42523
②上層農家率	0.83453	0.36101
③60歳未満農業就業人口比率	0.57938	0.58194
④150日以上従事の農業就業人口比率	0.21563	0.09264
⑤1戸当たり経営耕地面積	0.82282	0.41683
⑥100戸当たり農用トラクタ等台数	-0.12612	0.33155
⑦1戸当たり生産農業所得	0.82264	0.50877
⑧農業労働生産性	0.66151	0.08066
⑨財政力指数	-0.52723	0.72323
⑩人口増加率	-0.42139	0.60500
⑪生産年齢人口比率	0.14708	-0.51952
⑫第3次産業就業人口比率	-0.56496	0.67108
⑬1人当たり課税所得	-0.53920	0.76521
⑭1人当たり工業出荷額	0.00363	0.20459
⑮可住地人口密度	-0.73313	0.42081
⑯1人当たり預貯金残高	-0.35604	0.37011
⑰林野率	-0.31065	-0.60229
固有値	5.3192	4.1210
寄与率(累積寄与率)	31.29%	24.2%(55.5%)
*主成分の解釈	農業活性度	社会経済活性度

表2 主成分得点の変化

('90年→'95年, 単位: 市町村)

農業地域類型	社会 経済 活力 上昇	農業 活力 上昇	社会 経済 活力 下降	農業 活力 下降	社会 経済 活力 下降
都市的地域	11	0	1	5	5
平地農業地域	35	11	9	7	8
中間農業地域	19	6	6	2	5
山間農業地域	6	2	1	2	1
計	71	19	17	16	19

注) 「農業地域類型」は農林統計区分による

データ出典: 「生産農業所得統計」, 「農業センサス」,
「国勢調査」, 「個人所得指標」, 「市町村別決算状況調

表3 クラスター分類による地域類型と活力得点(主成分得点)の特徴(1995年)

グループNO	活力得点(主成分得点)の特徴
I	社会経済活力度が県平均(0)以上の市町村がほとんどであるが、都市化がすすみ農業活力度平均が3グループ中最も低い。
II	Iグループ並の経済活力度を有し、農業活力度が3グループ中最も高い市町村。平地農業地域が大多数であるが一部の間接農業地域は含まれる。
III	農業活力度・社会経済活力度ともに県平均以下の市町村が多く含まれる。中山間農業地域が大多数であるが、一部の平地農業地域も含まれる。

3) 発表論文等

なし

